

研究紀要投稿要領

編集担当幹事 立松英子

障害児基礎教育研究会は平成元年に発足し、創始者である水口俊先生の精神を受け継ぎ、新しい仲間を育てながら、活動を続けています。新型コロナウイルス感染症への対応で2年前より定例会はオンラインが主となり、教材工夫展もオンラインで行うようになりました。

つきましては、例年同様、教材工夫展での発行に向けて、研究紀要の原稿を募集いたします。

* 個別の実践に焦点を当てた「書式1」、教材教具に焦点を当てた「書式 2」をご用意しますが、これらにこだわらず、ちょっとした「コラム」でもかまいませんので、意欲的な原稿をいただきたいと存じます。その他、お問い合わせは、立松(eitatema@gmail.com)にお願いします。

記

1 研究紀要の目的

本研究会の活動や成果を多くの人に知っていただき、障害児教育の発展に資する。

2 内容

教材教具を使った実践やそれに関連する論考などを募集する。

3 締め切り **令和 4 年 7 月 31 日**

投稿フォーム : <https://forms.gle/4vrLvJpSNyDvY3P86>

* google のアカウントをお持ちでない方は、上記 URL をブラウザの検索窓(🔍)に直接貼り付けてください。

* 8 月初旬までに編集し、印刷原稿 (PDF) にして発注します。冊子全体の統一を図るため、主旨や内容を変えないようにしながら、こちらで手を入れさせていただくことがありますが、最終原稿につきましては、メールのやりとりでご承認を得ています。7 月後半は猛烈に忙しい時期かと思しますので、教材の撮影は早めに行うことをお勧めいたします。

4 発行予定

令和 4 年 8 月 20 日 (教材工夫展初日)。 会員と教材展への参加者には郵送で発送します。

5 原稿の作成方法

MS-Word2003 以上で作成してください。その他のアプリケーションには対応できません。原稿内の写真は圧縮され目が粗くなりがちですので、原稿とは別に JPG 形式をご用意ください。図表が 10 個を超える場合は、別のフォームでご氏名を入力の上、追加してください。

研究紀要執筆要領

教材教具を用いた基礎教育の意義を多くの人に知っていただき、実際に「やってみよう」という気持ちになっていただくことが重要です。単に「子どもが変わった!」「よくなった!」ということではなく、その過程を詳しくお伝えください。

*本文の余白は上 28mm、下 30mm、右 28mm、左 30mm、文字数・行数は、40 文字×37 行に設定してください。文字は 10.5p でお願いします。標準的な書式は以下を参考にしてください。

*対象児の年齢や性別、障害や発達状況(指さしや身振りなど要求の表出手段、模倣、自力移動や身辺自立の様子、特徴的な行動)、教材の材料やサイズ、学習を実施した条件(「週 1 回 45 分、自立活動の時間に行った」など)、状態が目には浮かぶように書いてください。

*同じことを表す言葉は統一してください(例:シート・ボード・パネル・板・盤:読み手が別の物と誤ってしまうため)。

*個人の特定につながる情報の掲載はお控えください(例:Nくん→Aさん、居住地の記載はF 県 S 市→A 県 B 市など)。

*やむを得ない場合(連絡がとれない等)を除き、本人もしくは保護者の了解を得てください。

書式1: 事例に焦点を当てて(複数の教材を使って働きかけた場合など)

テーマ:○○○○○○○

— * * * * * —

報告者:○○特別支援学校 ○○ ○○

子どもの様子【例】 ○さん(小5 女)

基礎情報:小頭症。脳性麻痺。てんかん。愛の手帳1度 身体障害者手帳1級。

食事:鼻腔流動食1日3回。経口摂食の訓練を家庭で1日2回行っている。

動き:背臥位で足をつっぱって移動することが多い。足の裏や顔に触れられることを嫌がっているように見える。よく動く右手を顔のあたりにもっていき、自分でチューブを抜いてしまうことがある。

視覚:強い光刺激にも反応があらわれにくい。

聴覚:音の刺激には敏感であり、眼球を動かしたり、音のする方に顔を向けたりする。

- 1 テーマ設定の背景
- 2 ○さんのこれまで
- 3 学習(支援)の経過 実施した場所や時間、回数、教材を含める。
- 4 結果 対人行動や日常行動の変化/保護者や同僚の感想など、事実を書く。
- 5 考察とまとめ(今後の課題) 執筆者の気づきや発見を論じてください。
- 6 文献 (書式2参照)

書式 2: 教材教具に焦点を当てて

* 特定の教材教具のよさを表現したい場合は書式 2 がお勧めです。

表紙

教材教具名 ○○○○○○○○○
<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">写真</div>
○○立○○学校 氏名
概要
<材料> サイズも明確に。特殊なものは、調達場所や値段を記入してください。
<作り方>
①・・・
②・・・
<購入や作成上の留意点>

1 子どもの様子

① ○(A, B, C, D..)さん、(学校、学部、学年あるいは年齢, 性別)
② 医学や福祉の情報(診断名、合併症(てんかんなど)、手帳、受けている福祉サービス等)
③ プロフィール:以下の観点を参考に書いてください。 <姿勢><移動運動><探索・操作><食事><排泄><生活習慣><コミュニケーション(理解言語・表出言語・要求表現・指示伝達手段)><社会性(対人志向性や社会的行動)><行動面の特徴>等。諸検査の結果があれば書いておく。
③ 家庭環境や保護者の願い (ここまでを、□で囲む)

2 教材作成の背景 : この教材を作成した動機やその背景としての子ども像など。

3 ねらい : 「2 教材作成の背景」を受けて「ねらい」を書く。

4 工夫点 : サイズ、色、形、提示の方法やタイミングなど。

5 学習(支援)の経過

* 読者が真似してやってみたくなるような、具体的な情報が書かれていることが重要です。

期間 : 例:○年○月~△年△月

形態 : 場所、頻度、時間、教員と子どもの割合、他の学習との関係など。

内容 : 教示の方法、受信一発信の手段やほめるタイミングなど。

6 結果 * 「学習(支援)の経過」に対応し、何をしてどうなったか、事実を述べてください。

7 考察とまとめ(今後の課題)

学習の経過で得られた気づきや子どもの変化、その背景を自分の考えで論じてください。ねらいが達成されなかった場合も、その理由を考察することで、読者にとっては貴重なメッセージになります。まとめには、アプローチの限界をふまえて、今後の課題を簡潔に添えます。

8 文献 引用文献や参考文献があれば必ず書いて下さい。

<文献の書き方>

①著書の場合:著者名(発行年):引用部分の表題、In:本の編者、書名、発行者、pp 最初のページ-最後のページ

②雑誌論文の場合:著者名(発行年):表題、雑誌名、巻、号、最初のページ-最後のページ

種類	書き方の例
著書全体	木下康仁(2017):グラウンデッドセオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い, 弘文堂.
分担執筆部分	無藤隆(2003):教育心理学の研究論文・著作物による貢献. In: 日本教育心理学会編 教育心理学ハンドブック. 有斐閣, 第3章, 第1節, pp29-33. * 著書の複数ページの場合は pp をつける
雑誌論文(著者3名)	藤田一郎・田中宏喜・谷川久(2001): 腹側視覚経路における両眼視差と面の情報処理. Vision 13, 2, 87-91. * 雑誌論文の場合、pp はつけない
Webからの引用	中央教育審議会(2016): 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について(答申) (平成28年12月) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/... (2021年6月3日アクセス)

—書き方のコツまとめ—

- 1) テーマは、何にでも当てはまるものは避け、対象の姿が想像できるものにする。(障害のある人のための教材教具の工夫⇒×)(○さんが対象を見て、手を伸ばし、つかむための工夫⇒○)
- 2) 常にテーマを意識して、テーマからはずれないように書く。
- 3) 教材の色や大きさに加え、子どもとの空間関係、提示やほめ方のタイミング等を示す。
- 4) 回数などできるだけ具体的な情報を入れる。
- 5) 状況を想像しにくい抽象表現は避ける(×寄り添う・理解する⇒○視線や手の動きを通して、子どもが興味をもった物の特性を考えて教材に生かした○)
- 6) 「かなり」「とても」「しっかり」「きちんと」等人や場面によりイメージが異なる表現を避ける。
- 7) 「結果」には事実を淡々と書く。自分の考えや解釈は、「考察とまとめ」に書く。